

平成22年度 児童生徒の生活習慣病予防対策

肥満統計の概要と考察

目次					
1	支部別肥満児の割合	(小学校)	8	支部別やせの割合	(小学校)
2	〃	(中学校)	9	〃	(中学校)
3	〃	(小・中学校)	10	学年別肥満児の全国との比較	(男子)
4	学年別肥満児の割合	(小学校男子)	11	〃	(女子)
5	〃	(〃 女子)	12	肥満調査結果の考察	
6	〃	(中学校男子)			
7	〃	(〃 女子)			

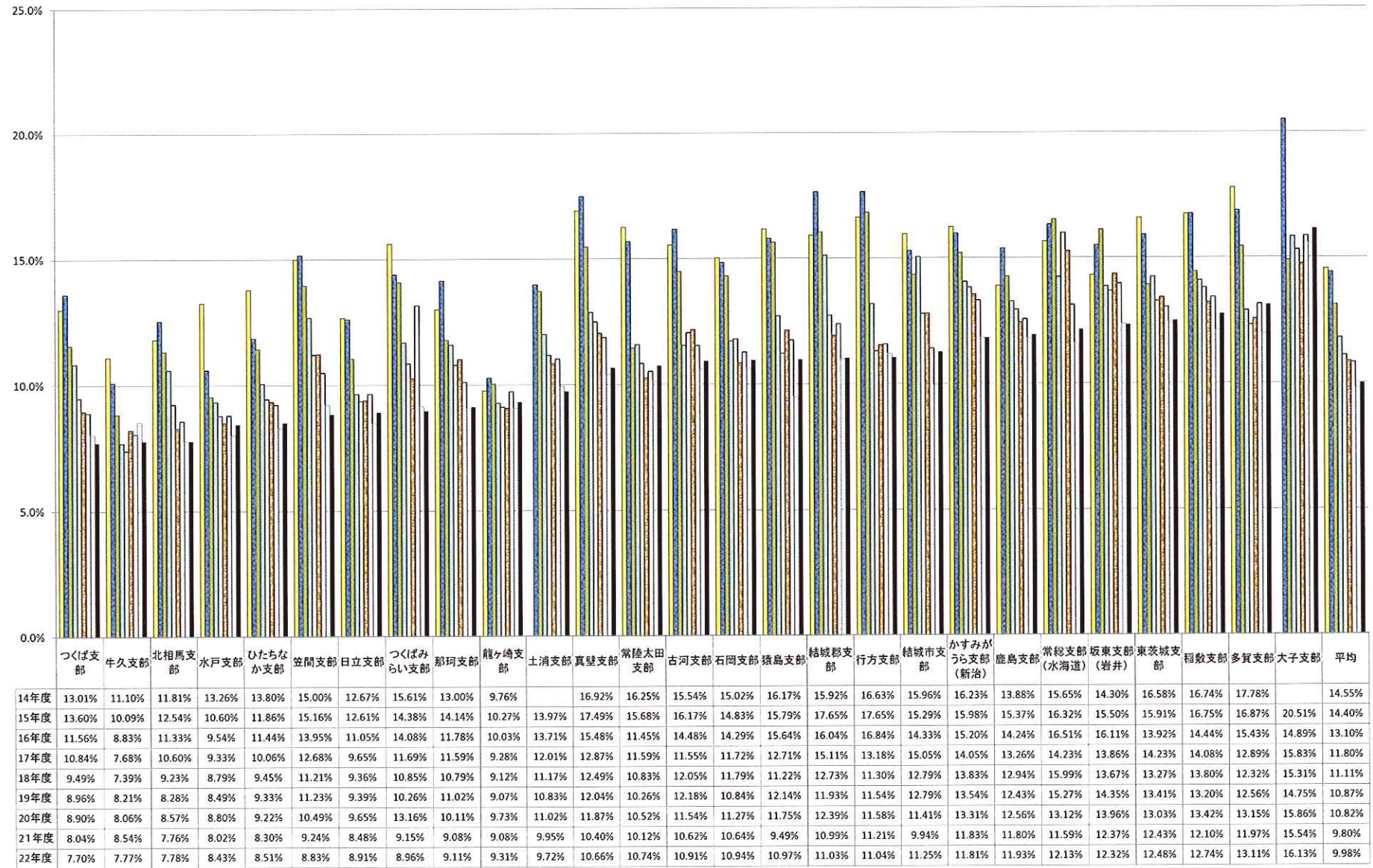
肥満対策委員会								
委員長	山脇	英範	委 員	荻野	義重	委 員	倉田	隆子
委 員	高橋	正彦	〃	齋藤	謙一	〃	檜山	洋子
〃	平野	岳毅	〃	佐藤	隆文	〃	安達	記代子
〃	平野	千秋	〃	藤崎	芳男	〃	和賀	徳恵
〃	野末	裕紀	〃	石崎	千代美			

※ (詳細は各支部保健会事務局送付のCDをご覧ください)

平成22年度支部別肥満児の割合[小学校]

14年度 15年度 16年度 17年度 18年度 19年度 20年度 21年度 22年度

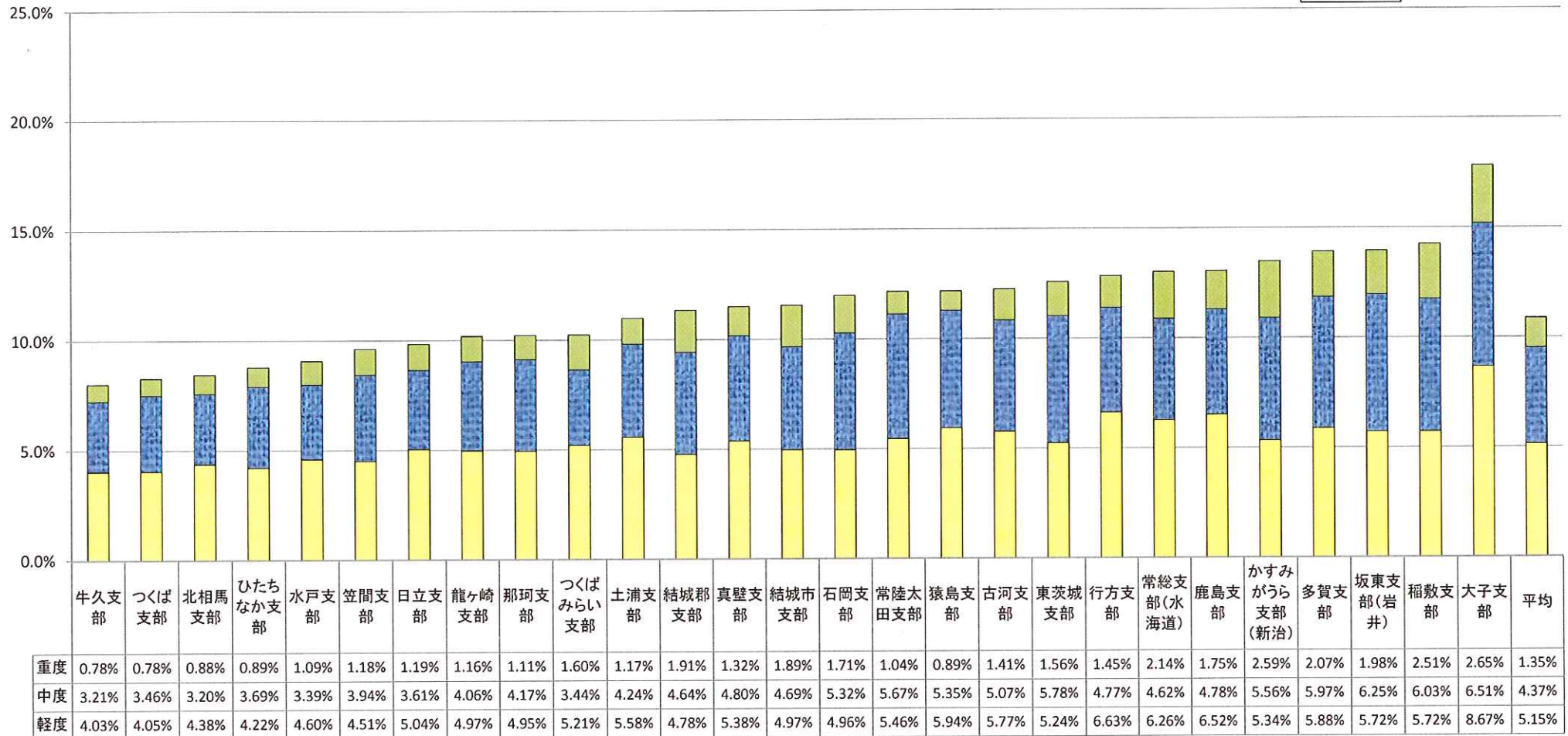
図1



平成22年度支部別肥満児の割合[小学校男子]



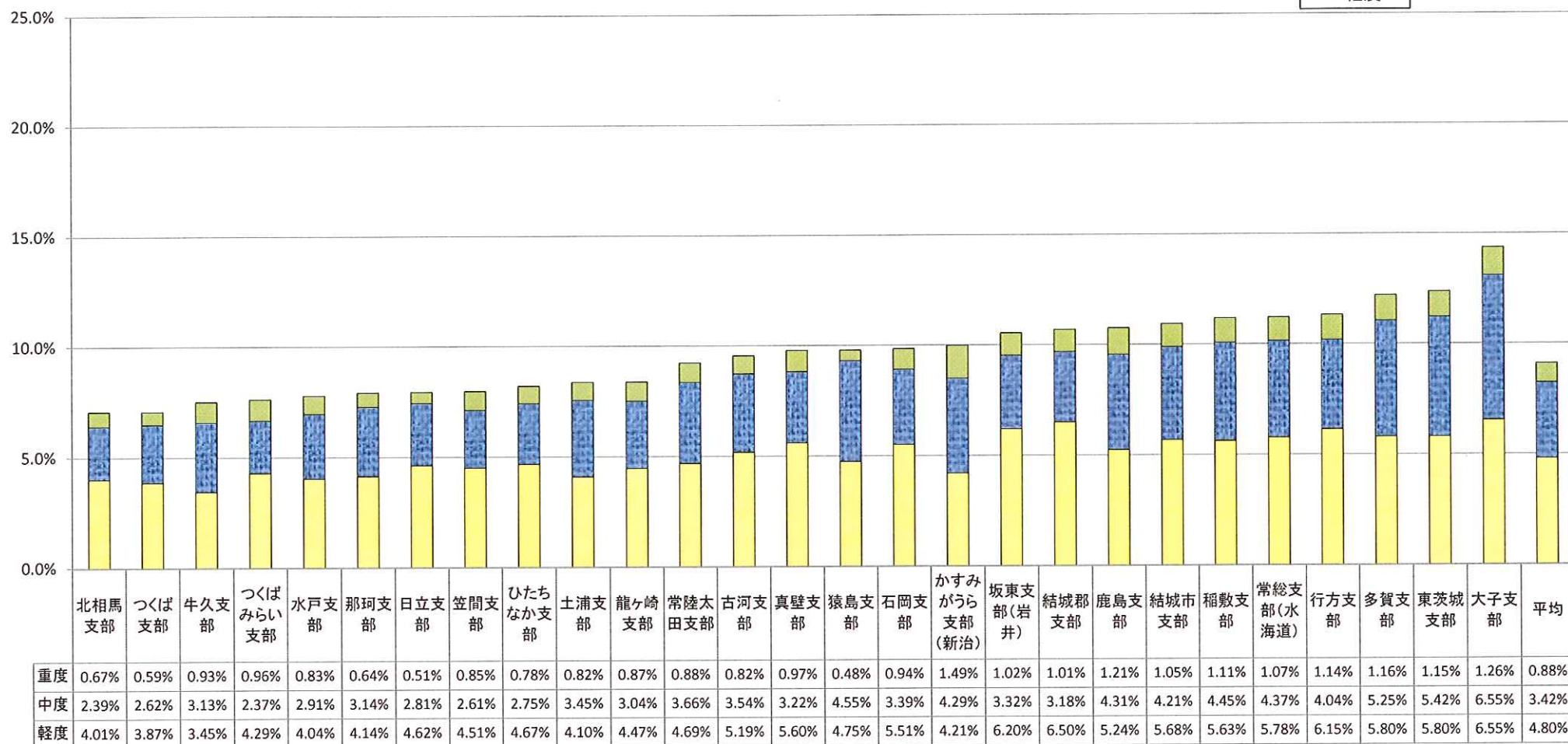
図2



平成22年度支部別肥満児の割合[小学校女子]



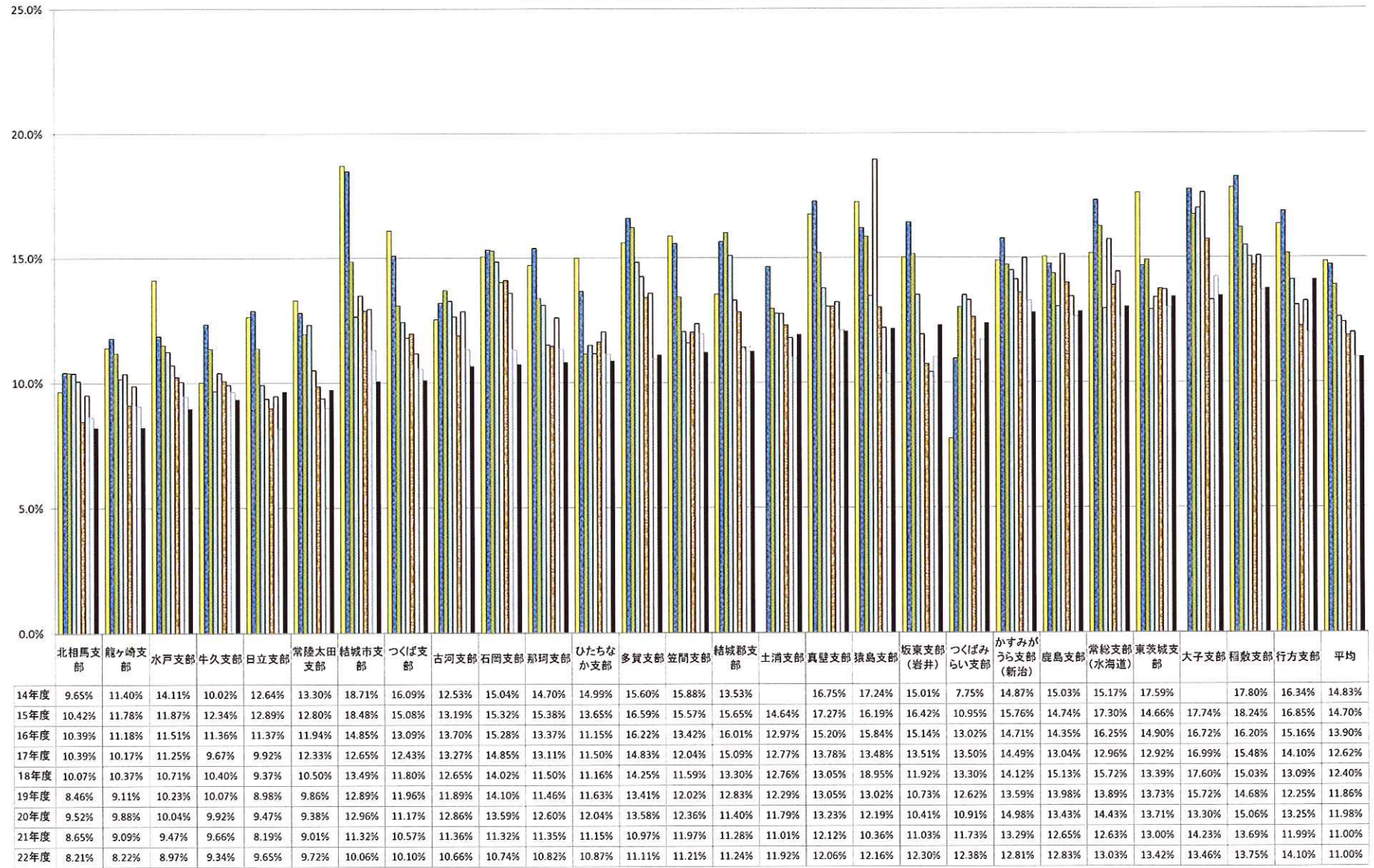
図3



平成22年度支部別肥満児の割合〔中学校〕

14年度 15年度 16年度 17年度 18年度 19年度 20年度 21年度 22年度

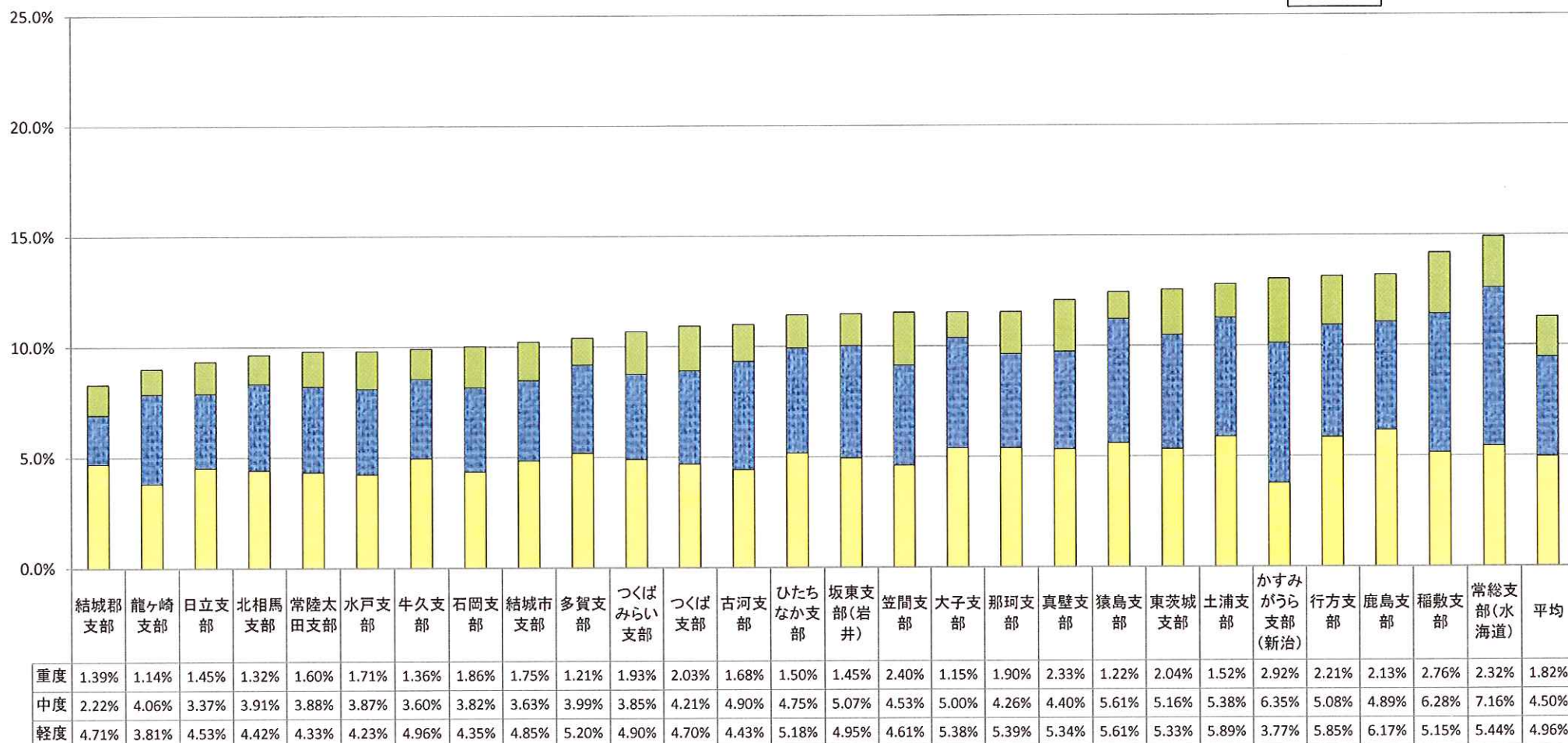
図4



平成22年度支部別肥満児の割合[中学校男子]



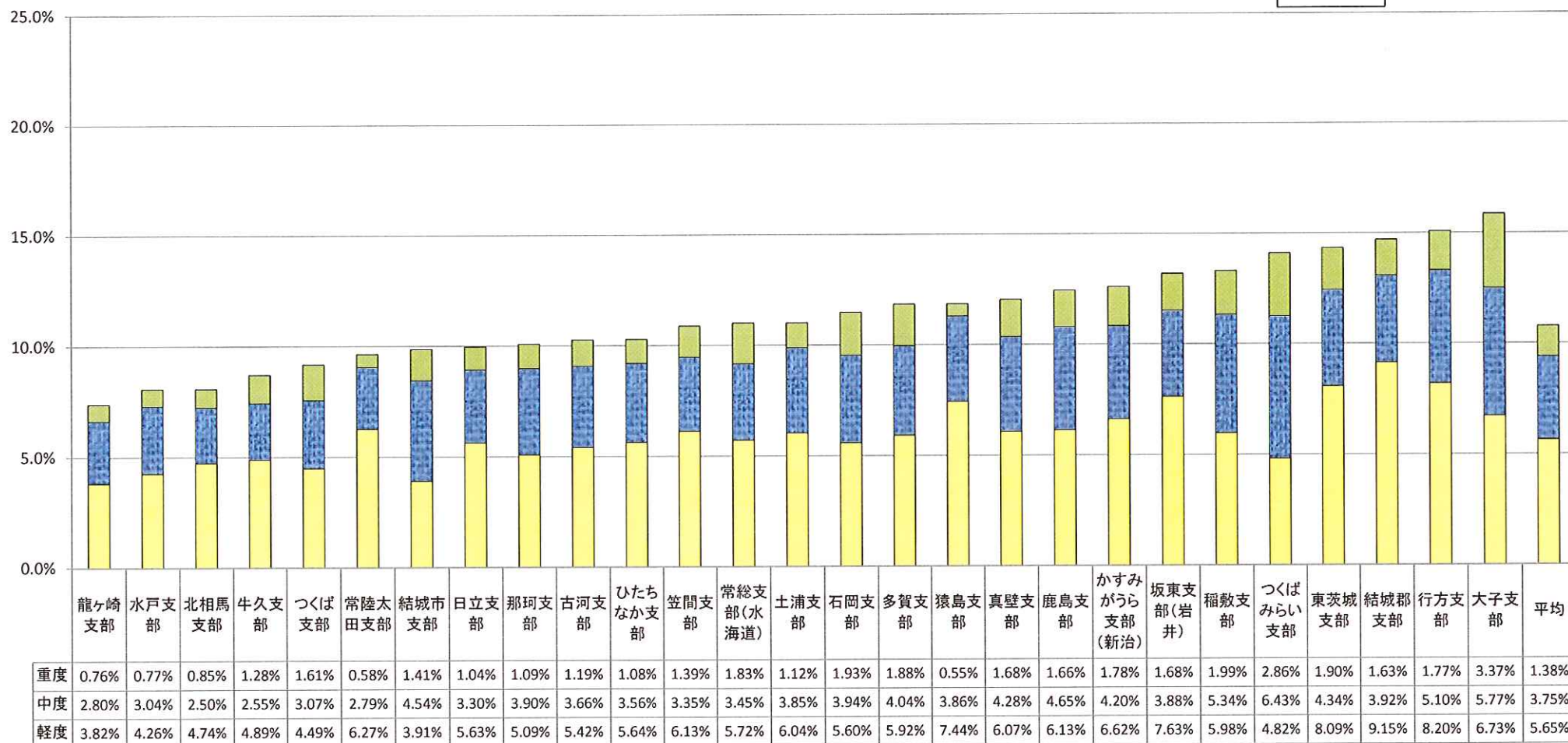
図5



平成22年度支部別肥満児の割合[中学校女子]

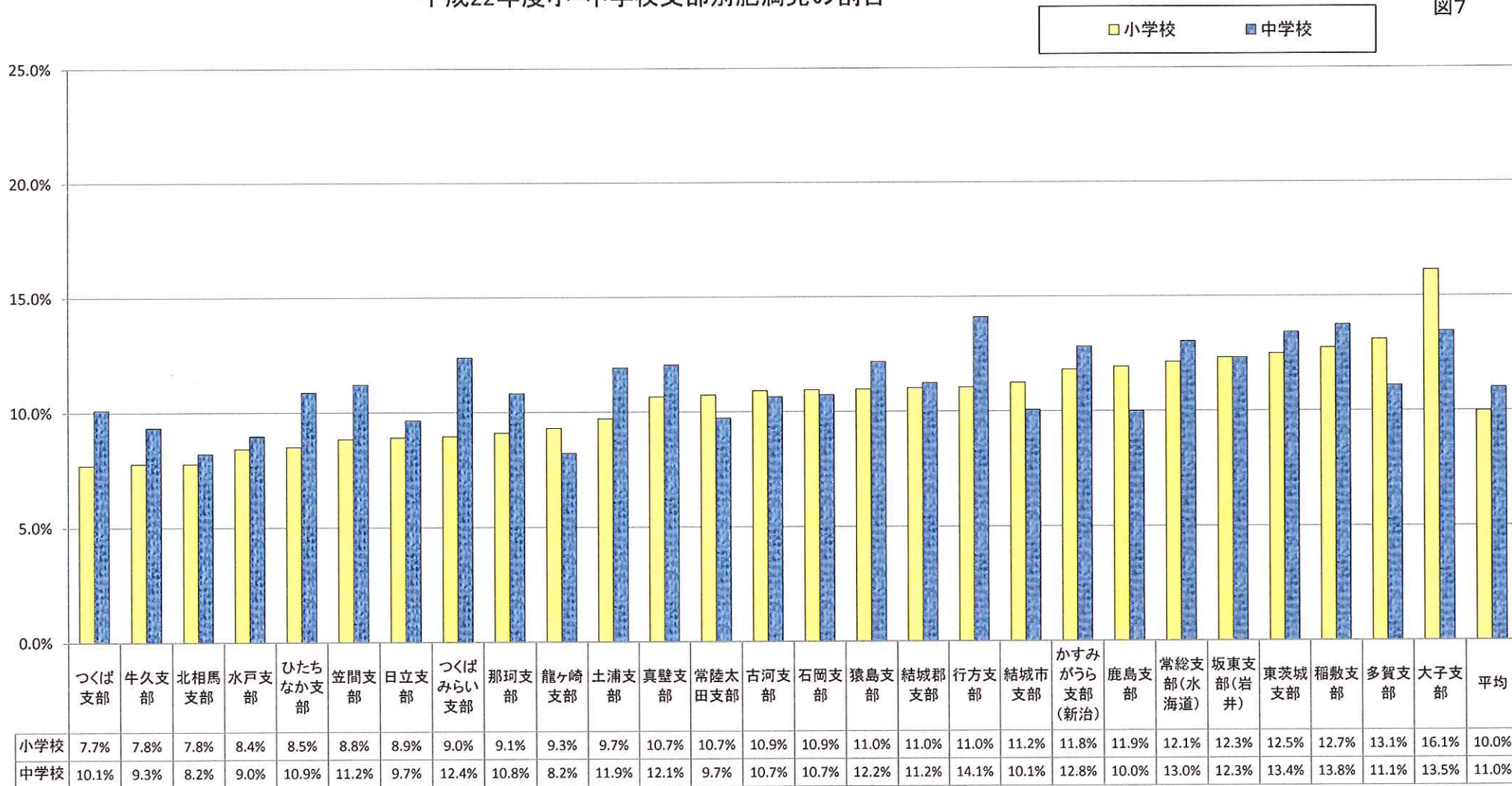
■ 重度
■ 中度
■ 軽度

図6



平成22年度小・中学校支部別肥満児の割合

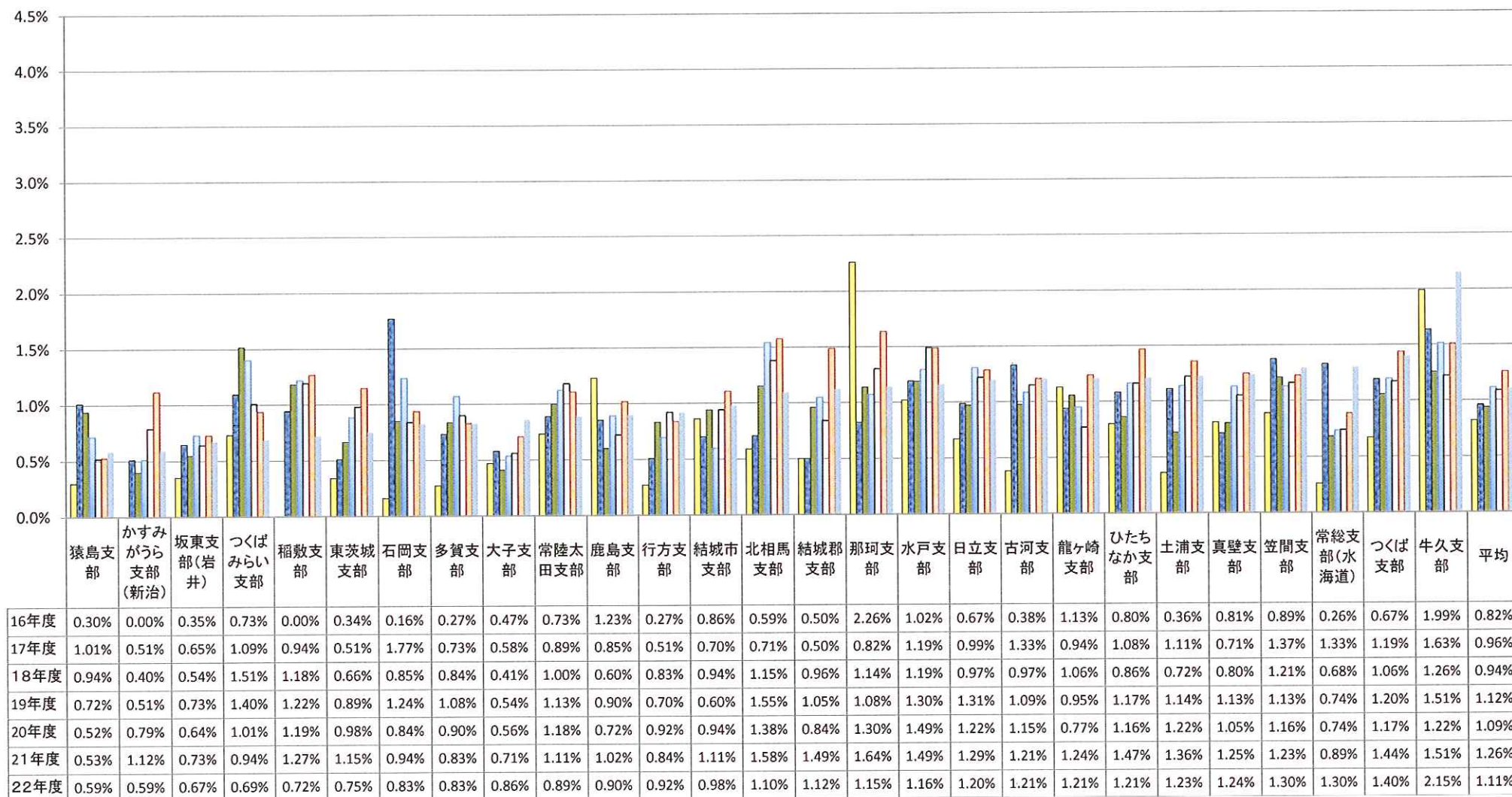
図7



平成22年度支部別やせの割合[小学校]

16年度 17年度 18年度 19年度 20年度 21年度 22年度

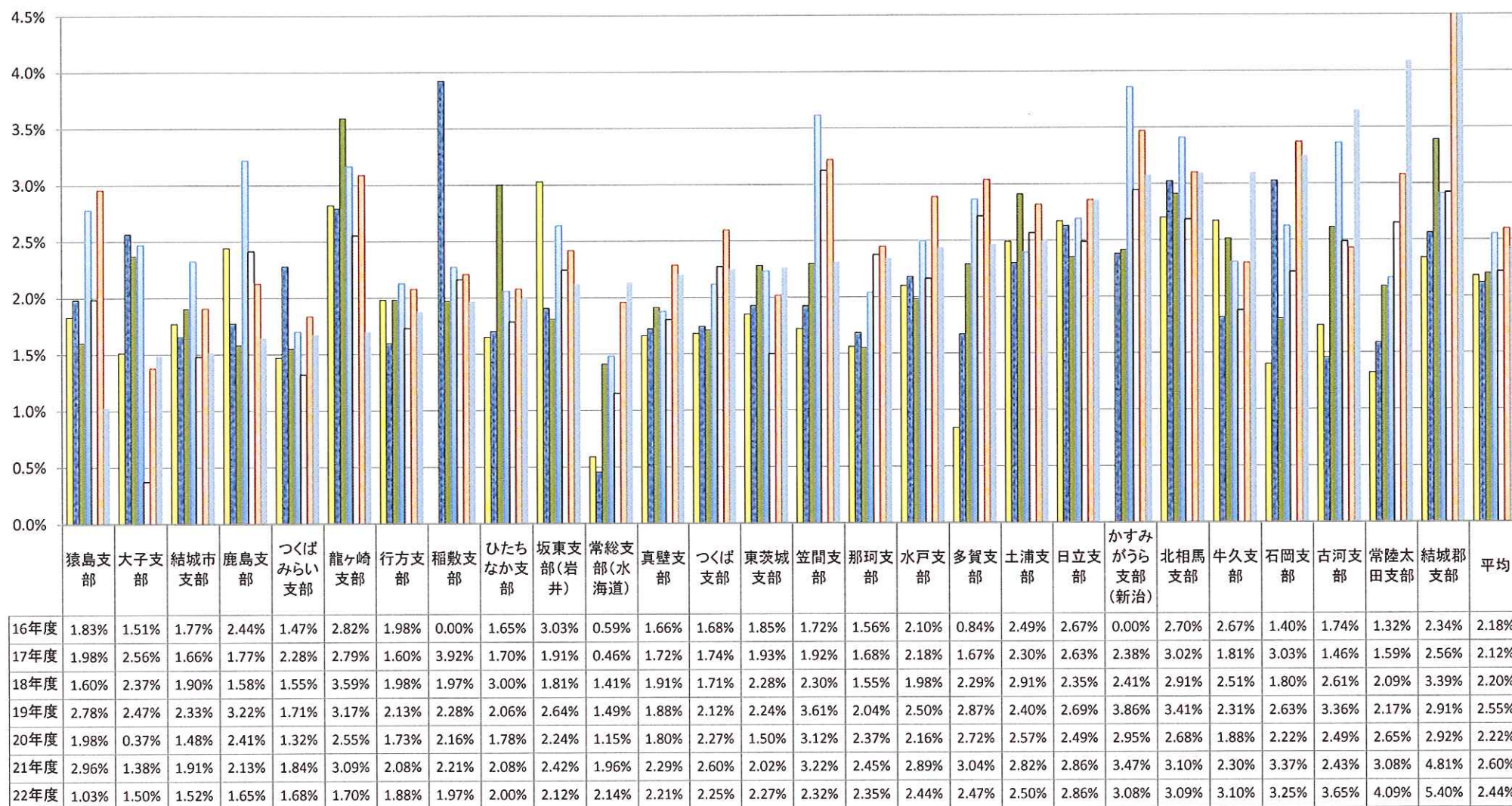
図14



平成22年度支部別やせの割合[中学校]

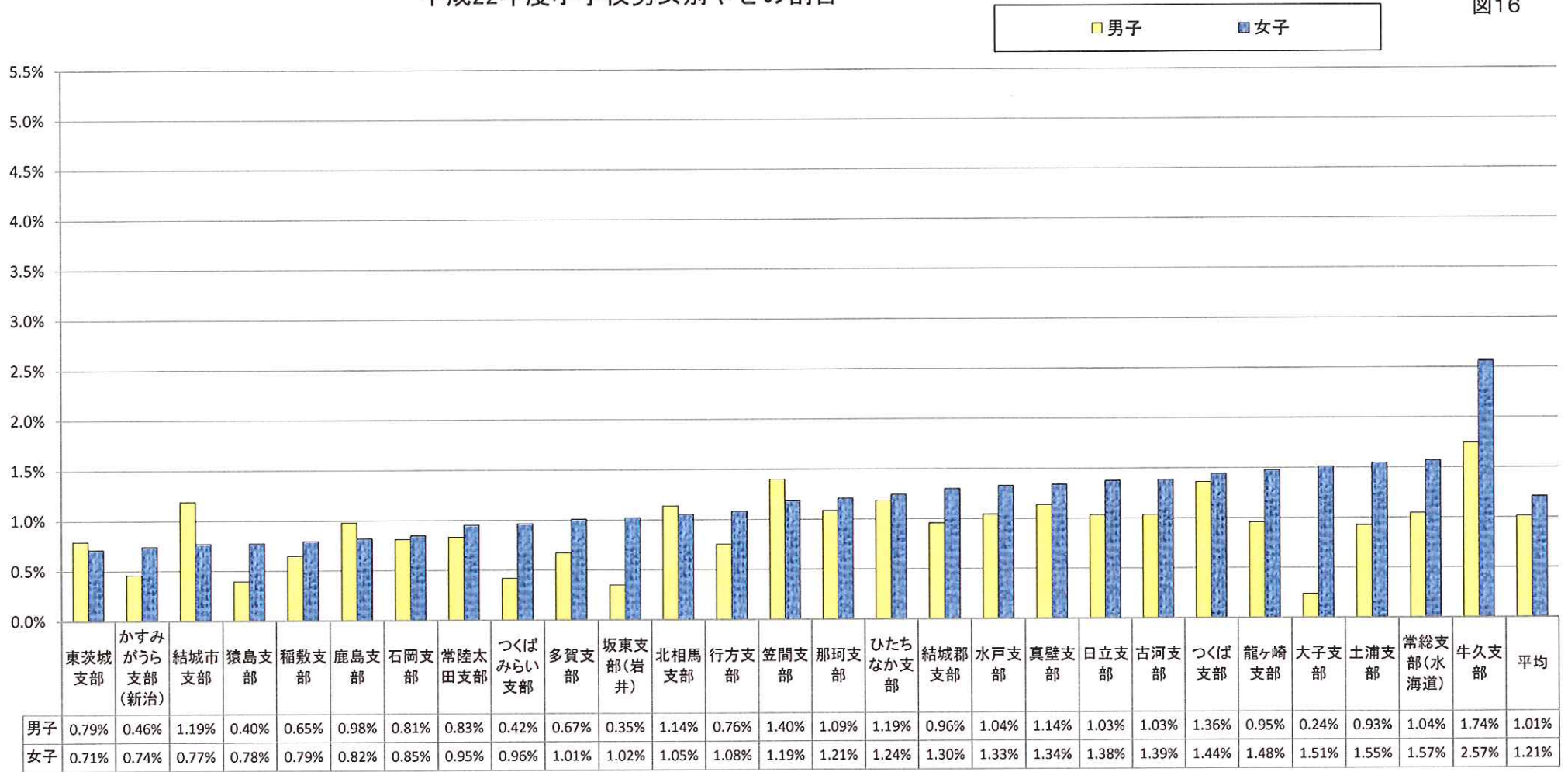
16年度 17年度 18年度 19年度 20年度 21年度 22年度

図15



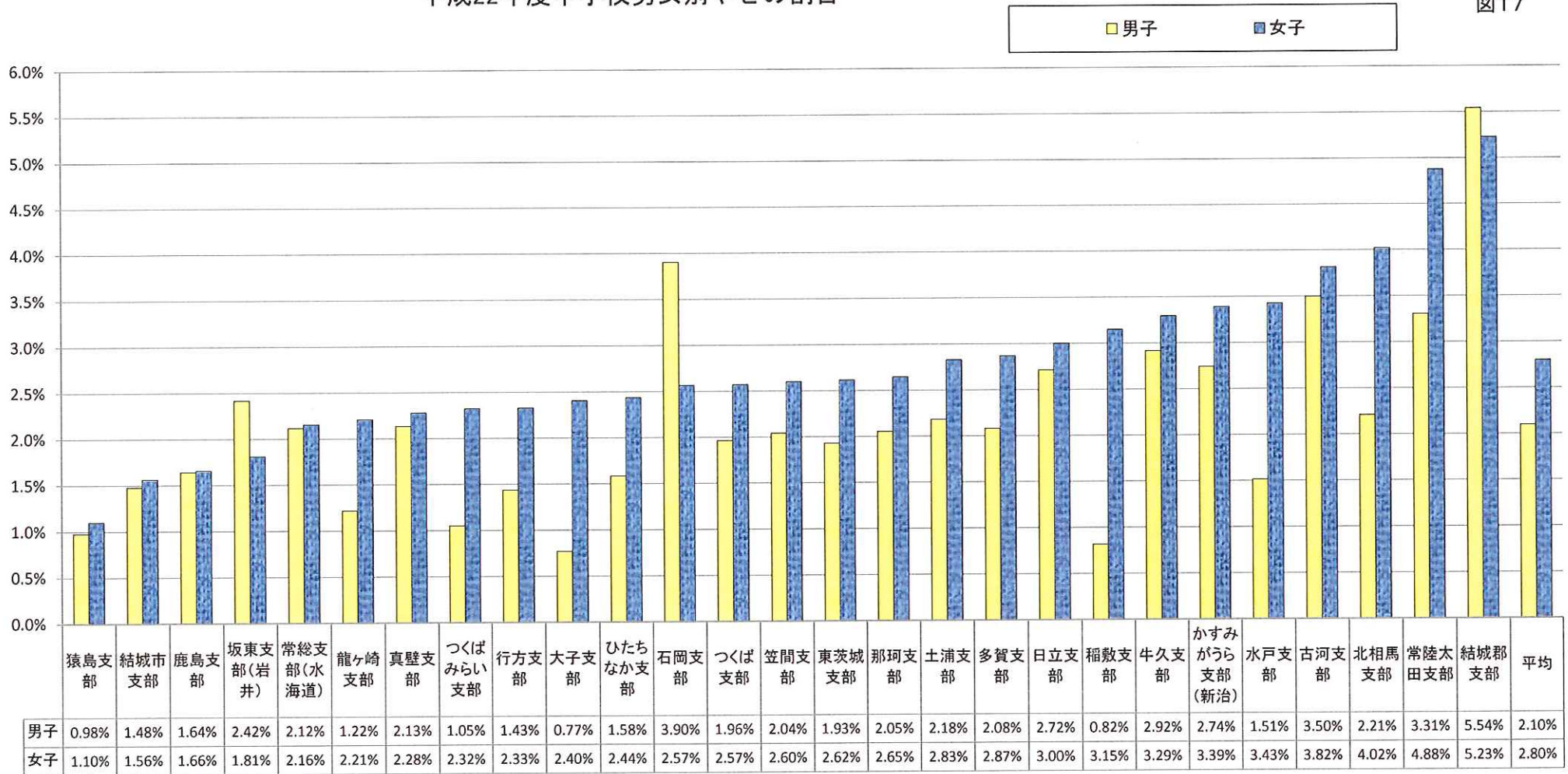
平成22年度小学校男女別やせの割合

図16



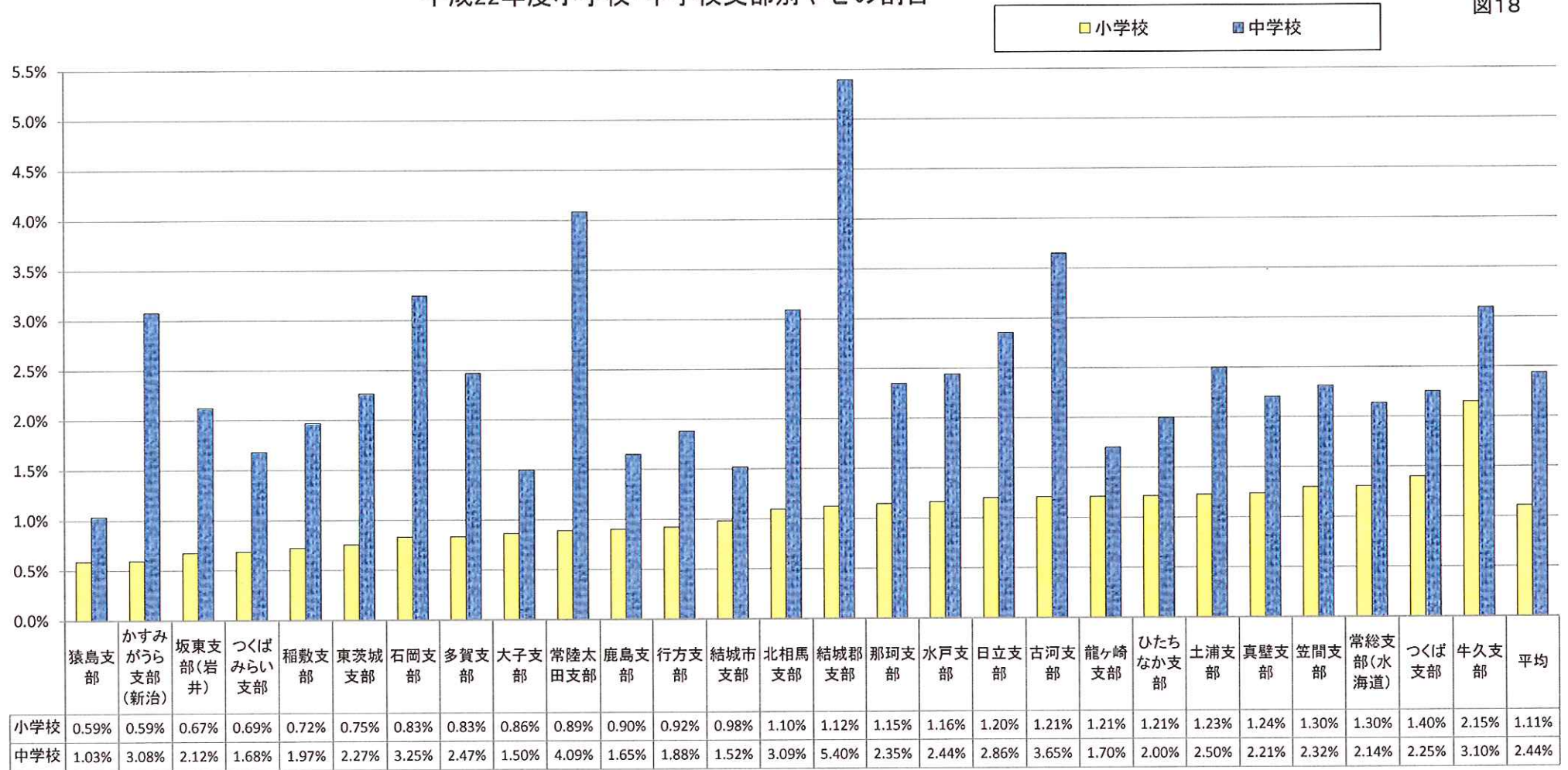
平成22年度中学校男女別やせの割合

図17



平成22年度小学校・中学校支部別やせの割合

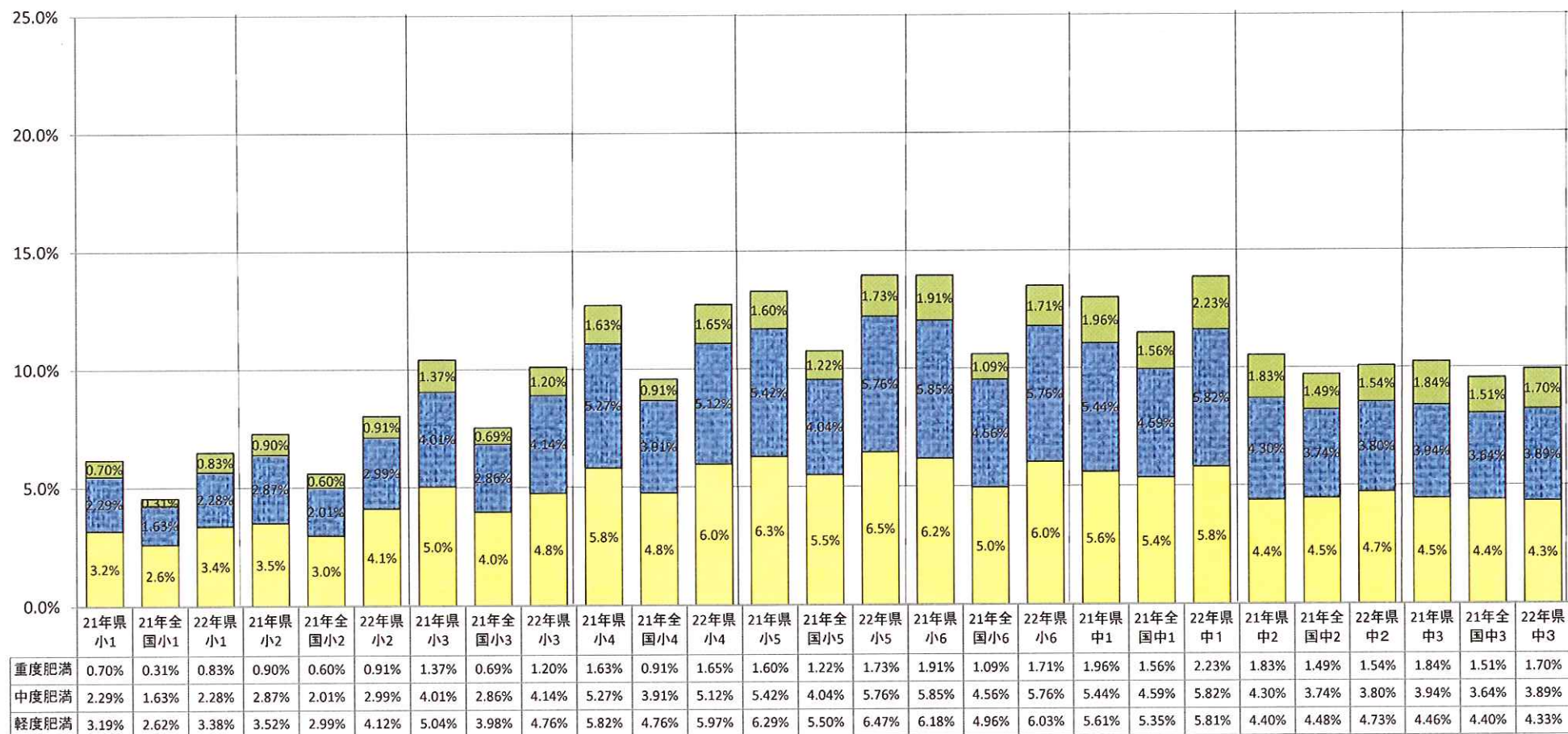
図18



平成22年度学年別肥満児の全国との比較[男子]

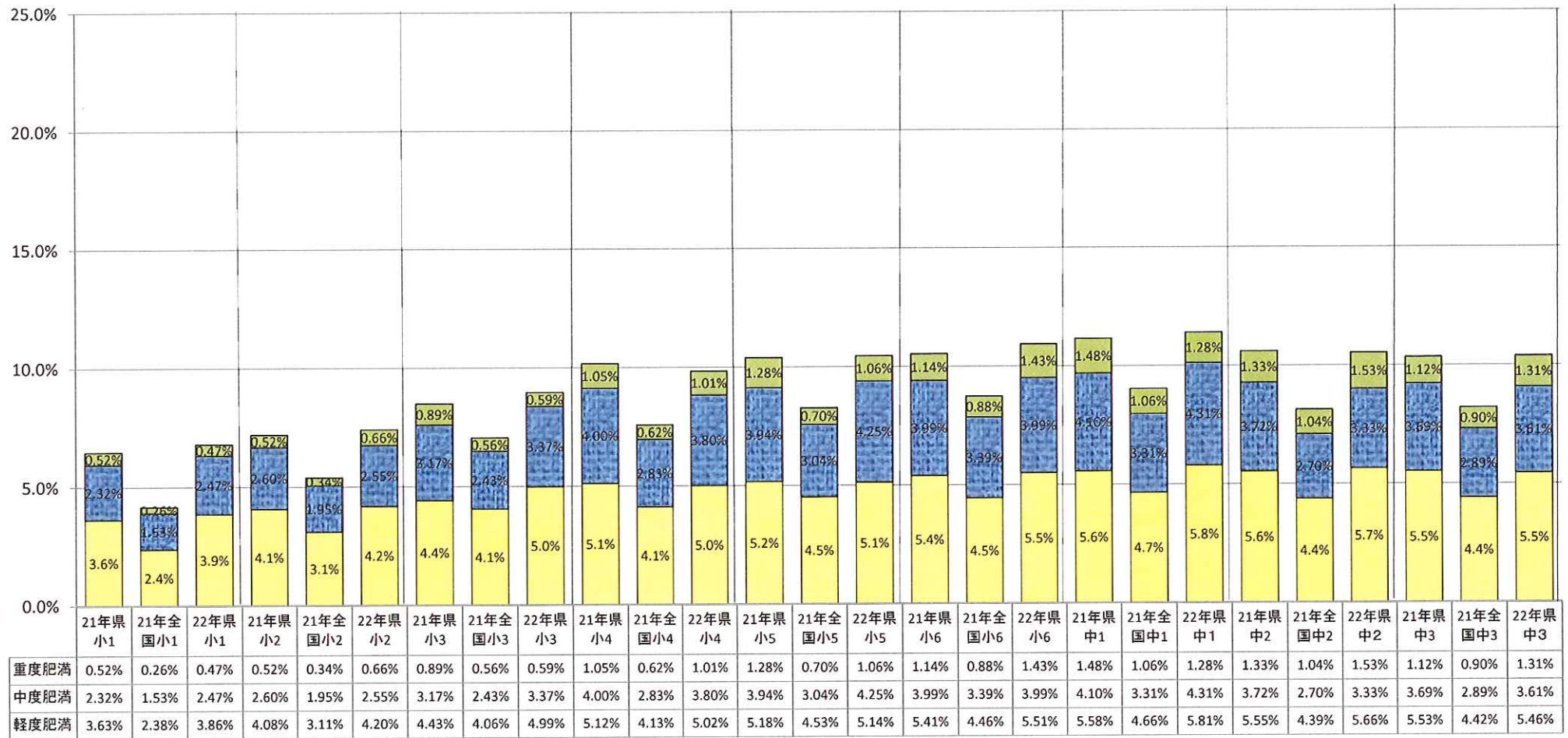


図23



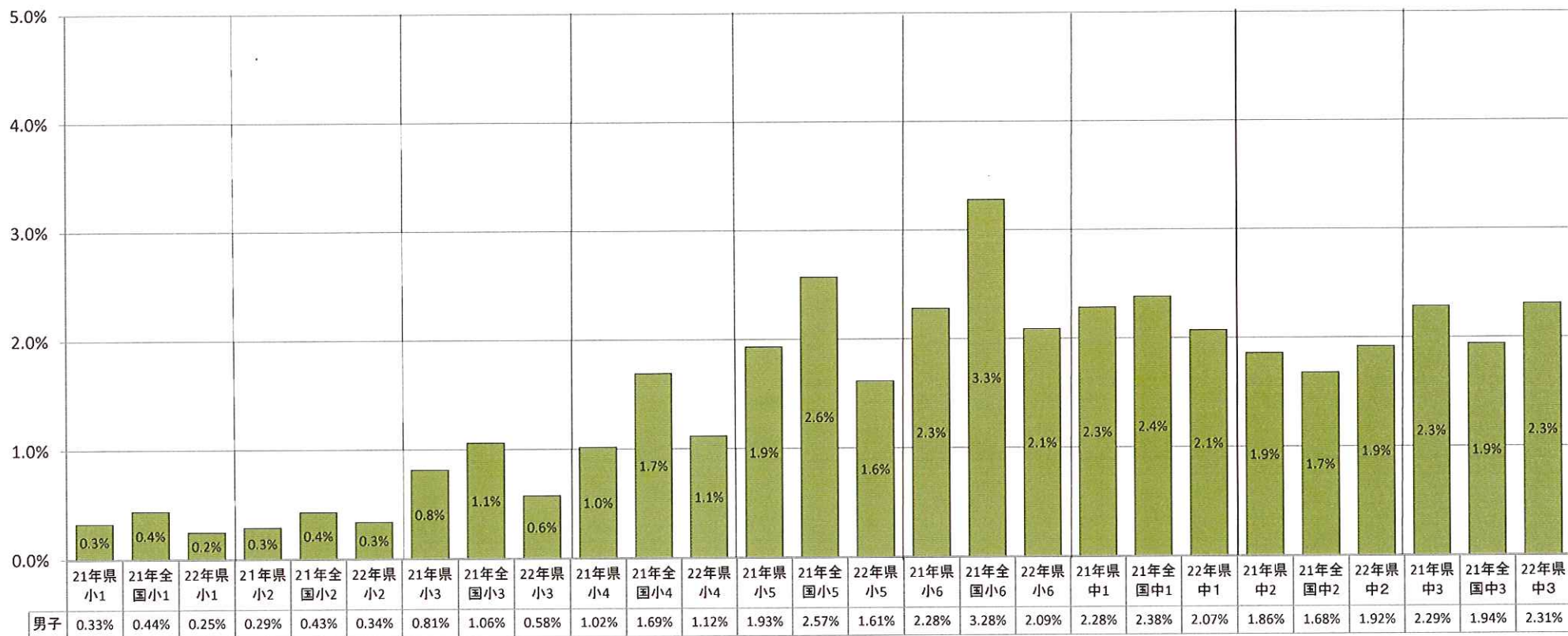
平成22年度学年別肥満児の全国との比較〔女子〕

図24



■ 男子

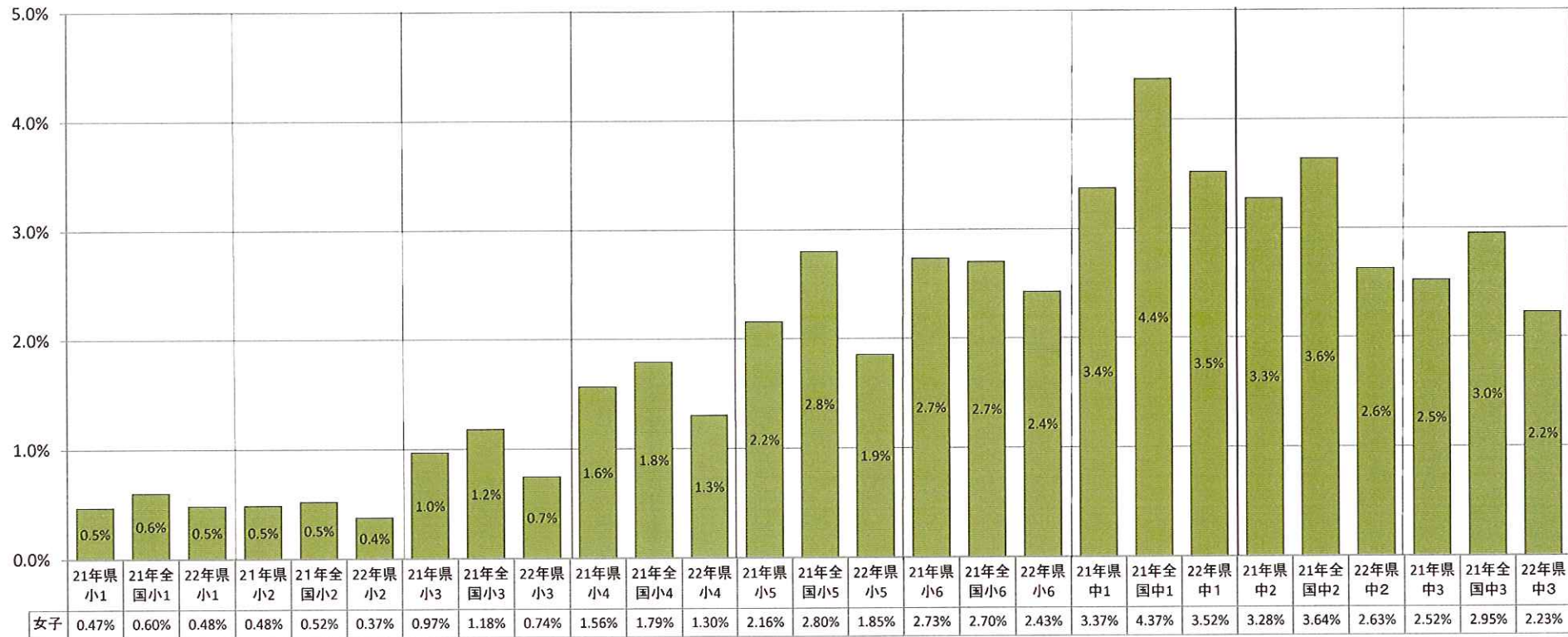
■ 男子



平成22年度学年別やせの全国との比較[女子]

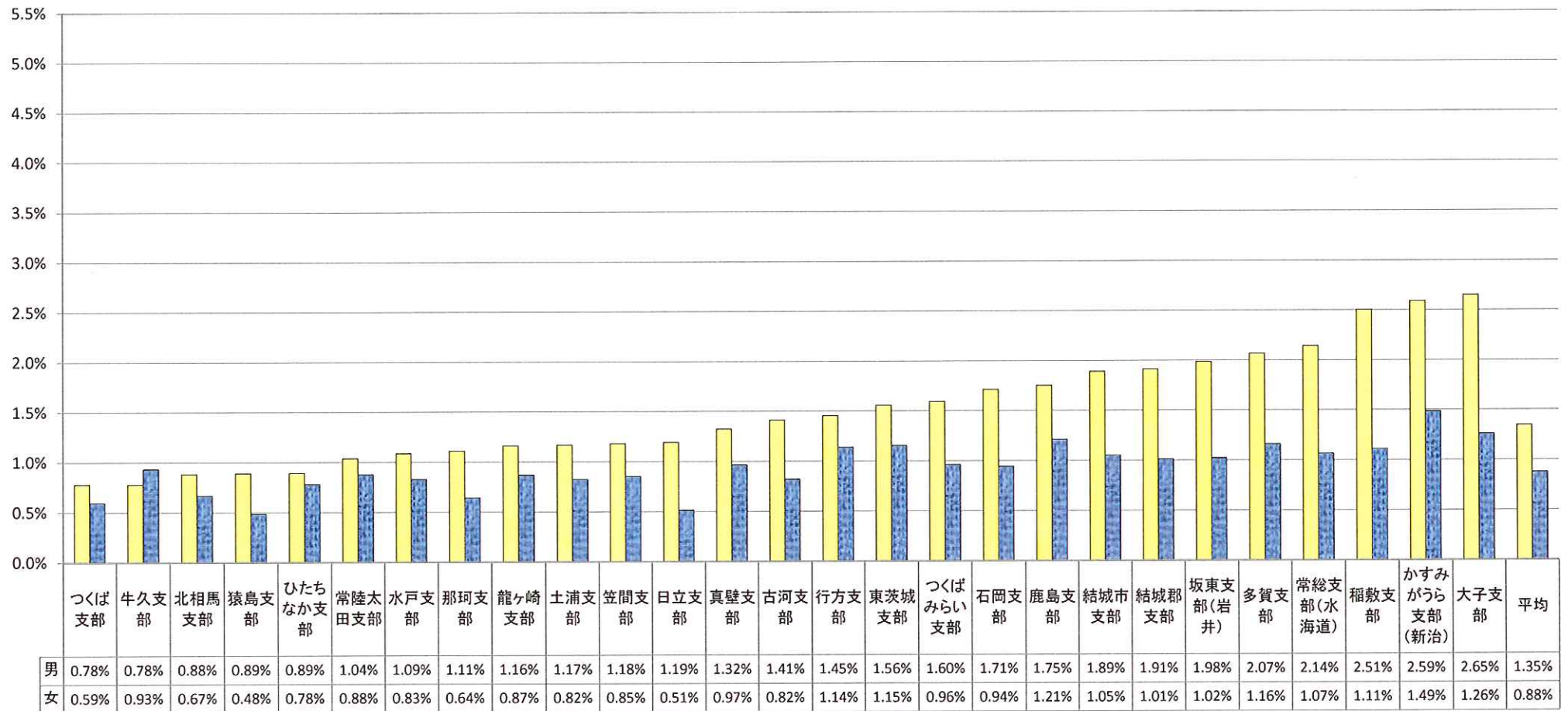
■ 女子

図26



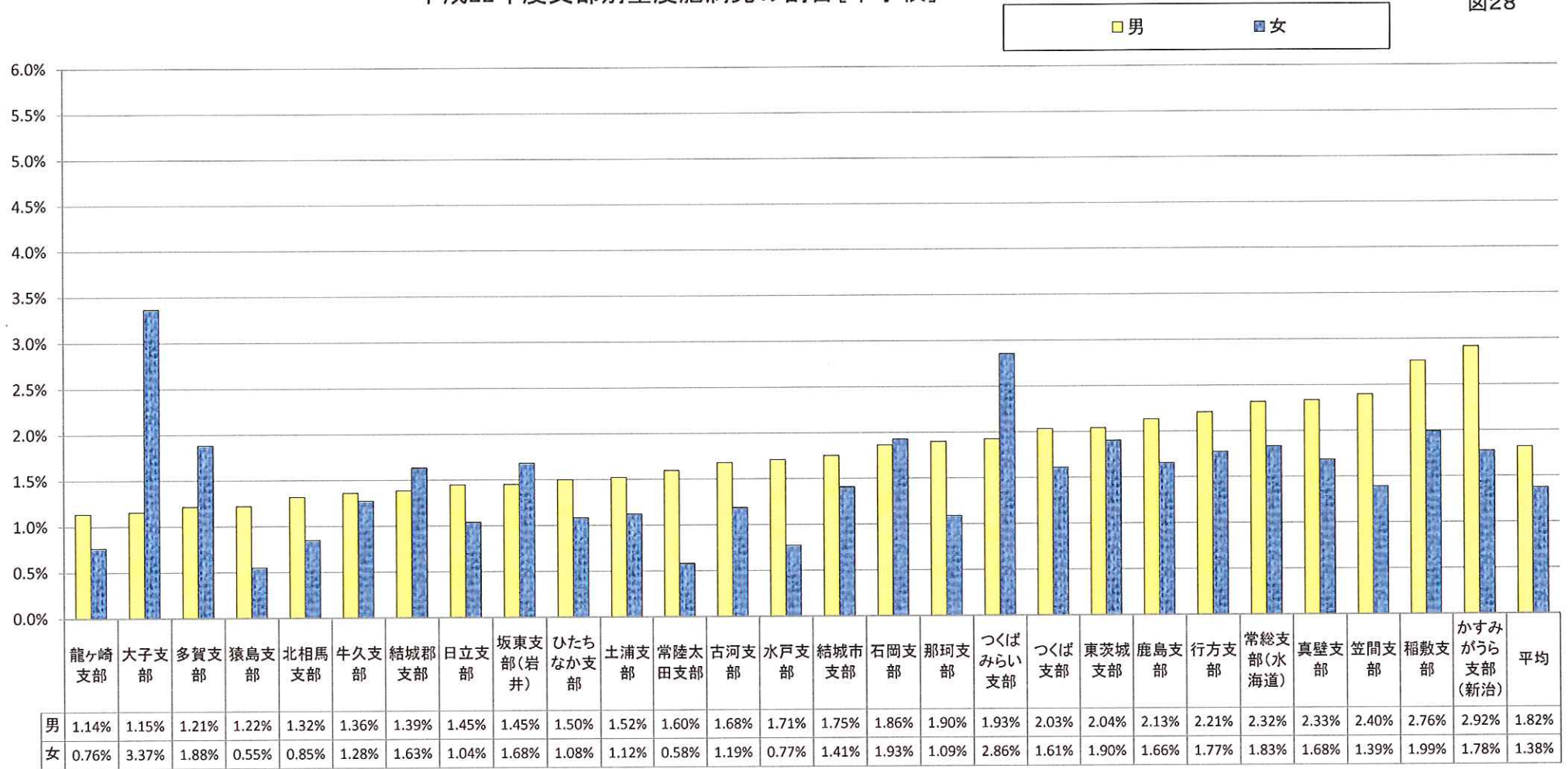
平成22年度支部別重度肥満児の割合[小学校]

図27



平成22年度支部別重度肥満児の割合[中学校]

図28



平成22年度肥満調査結果の考察

平成14年度から行っている肥満調査（やせについては平成16年度から調査）を、茨城県学校保健会27全支部の協力を得、県内の小学生166,850名、中学生80,859名、計247,709名を対象に実施し、その結果をまとめた。

1 支部別肥満児の割合

1) 小学校（図1・2・3）

- ・肥満児の割合が大きく減少した昨年度は、肥満度10%未満だった支部が13支部だったが、今年度は11支部である。毎年減少し続けていた肥満児の割合は、今年度増加した。しかし、昨年度に続き10%未満の9.98%である。
- ・肥満児の割合が低率である上位10支部はつくば・牛久・北相馬・水戸・ひたちなか・笠間・日立・つくばみらい・那珂・龍ヶ崎であり、昨年度も低率上位の10支部である。
- ・肥満児の割合が高率である下位8支部は太子・多賀・稲敷・東茨城・坂東（岩井）・常総・鹿島・かすみがうらであり、昨年度も下位の8支部である。
- ・昨年度より肥満児の割合が減少した支部は8支部である。
- ・肥満児の割合が10%未満だった支部は11支部である。

2) 中学校（図4・5・6）

- ・小学校同様、肥満児の割合が低率である支部、高率である支部は毎年同じような傾向である。
- ・肥満児の割合が低率である上位6支部は北相馬・龍ヶ崎・水戸・牛久・日立・常陸太田であり、昨年度も低率上位の6支部である。
- ・肥満児の割合が高率である下位7支部は行方・稲敷・太子・東茨城・常総・鹿島・かすみがうらであり、昨年度も下位の7支部内に入っている。
- ・昨年より肥満児の割合が減少した支部は15支部である。
- ・肥満児の割合が10%未満だった支部は6支部で、昨年度と同じである。
- ・県平均は昨年度と同じ11.00%である。

3) 小学校と中学校の比較

- ・例年同様、小学校より中学校の方が肥満児の割合は約1%多い。

4) 男女の比較

- ・小学校の県平均は、軽度・中度・重度、いずれも女子より男子の方が多く、ほとんどの支部で同様の傾向がみられる。また、それは例年同様の傾向である。
- ・中学校の県平均は、軽度・中度は男子の方が多く、高度は女子の方が多い。また、それは例年同様の傾向である。

2 学年別肥満児の割合

1) 過去9年間の比較(図8・9・10・11)

- ・例年、男女とも小学校は学年が進むにつれ肥満児の割合が増加し、中学校は学年が進むにつれ肥満児の割合は減少していたが、今年度は男子が小6から減少している。
- ・肥満度率でみると、小・中学校で男女とも軽度肥満児の割合が増加している。中度肥満児は小学校で増加し、中学校では減少している。中学校女子の重度肥満児の割合が増加しているが、小・中学校男女・中学校男子では減少している。

2) 9年間の経年推移(図12・13)

- ・男子は小学4・5年生をピークに、その後は減少する傾向がみられる。特に中学2年生で大きな減少がみられる。
- ・女子は小学3年生で大きく増加し、中学校で学年が進むにつれ減少する傾向がみられる。しかし、男子のような大きな減少はみられない。

3 やせについて

1) 支部別の割合(図14・15)

- ・昨年度、やせが増加したが、今年度は減少している。
- ・小・中学校とも、昨年度よりやせの割合が減少したのは19支部である。

2) 男女別の割合(図16・17)

- ・ほとんどの支部で女子の方がやせの割合が多い。中学校の方が男女差が大きい。

3) 小・中学校別の割合(図18)

- ・小学校より中学校の方がやせの割合が多い。
- ・結城・常陸太田・石岡・かすみがうらは、やせが多く、昨年度も高率である。

4) 過去7年間の学年別割合(図19・20)

- ・男子は小学5年生で増加し、その後大きな変化はみられない。昨年度ほとんどの学年で増加したが、今年度はほとんどの学年で減少している。
- ・女子は学年が進むにつれ増加し、中学1年生をピークに、2年生から減少する。

5) 7年間の経年推移(図21・22)

- ・男女ともに学年が進むにつれ増加するが、女子の方が1年毎の増加率が大きい。

4 全国平均との比較

1) 肥満児の割合(図23・24)

- ・どの学年も全国平均と比較するとかなり多い。特に重度肥満児の割合が多く、低学年で全国平均との差が大きい。
- ・男子は中学2年生で肥満児が減少し、全国平均の割合に近くなる。女子には男子のような肥満児減少時期がみられない。

2) やせの割合(図25・26)

- ・男子は中1まで全国平均より少ないが、中2から全国平均より多い。
- ・女子はすべての学年で全国平均より少ない。

5 まとめと今後の課題

平成14年から肥満調査を実施してきて、年々順調に減少してきた肥満児の割合は平成19年頃から減少率が緩やかになり、昨年度は大幅な減少がみられた。しかし、今年度は小学校で増加、中学校では同率である。

今年度、軽度肥満児が増加したことから、昨年度から新しい取り組みとして始めた、生活習慣記録表を、肥満児だけでなく標準体格の児童にも活用し、新たな肥満児を増やさない取り組みも行いたい。

小学校では昨年度、調査以来初めて10%未満となった。今年度増加はしたが、2年連続で10%未満であったことは、やはり成果である。

ただ、全国平均と比較すると本県はまだ肥満児の割合が多い。さらに肥満防止、生活習慣の改善に努力をしていきたい。

就学時にはすでに肥満児の割合が全国平均を上回っている。特に重度肥満の割合が多く、男子は全国平均の約2.7倍である。また、女子は小2でも解消傾向がみられなかった。就学前の働きかけや意識付け、対応が必要である。

今年度も、家庭はもちろん、幼稚園や保育所との連携も考えていくことが課題である。

肥満児の多い地域、少ない地域が固定しており、生活習慣はもちろん地域の特性も関係すると考えられる。児童生徒のみでなく保護者や学校医と学校が連携し改善を図りたい。その意味でも、生活習慣記録表の活用を呼びかけていきたい。そして、さらに「咀しゃくからみた肥満対策」として食育・食習慣への取り組みも行いたい。

そして、やせは全国平均より少ないが、いずれもよりよい生活習慣を身につけることができるよう、肥満児と同様、注意してみていきたい。